北海道美瑛町の公立学校の児童・生徒への教育支援

石井　雅幸　教授
(家政学部　児童学科)

概要 : 2022年度包括連携協定を結んだ北海道美瑛町の公立学校の児童・生徒に対して、本学学生と教員による学校支援の取り組みを模索的に行い、今後、どの範囲まで実施可能であるのかを探る試みです。

具体的には、本学の長期休業期間中に、本学の児童学科の学生が美瑛町内の公立学校の学校教育活動に入り、学習支援や学校生活指導上の支援を要する児童･生徒への支援を美瑛町教育委員会並びに本学の児童学科の教員の指導のもとで行っていくものです。こうした取り組みは、これまでに美瑛町では近隣の大学とも行う機会がありませんでした。そこで、今回の本学との包括連携協定の締結をきっかけにして、これまでの経緯から、本学と美瑛町の連携が取り組みやすいことを考慮し、学生が行う支援の可能性を探るとともに、本学の知名度を美瑛町にも高め、将来的には美瑛･富良野･旭川周辺の若者の本学への進学を促すきっかけを模索していきたいとも考えています。また、本学の学生が地域創生の必要性を学ぶきっかけをつくっていきたいとも考えています。



図 1　農業と福祉の連携事業として行われた収穫作業を参加者と一緒に学生が行った。かぼちゃの収穫作業

1　取り組み内容

児童教育専攻の2年と3年の学生6名が、美瑛町に出かけ、下記のような取り組みを行ってきました。今年度は、あくまでも今後に向けた試行的な取り組みとして行ったものです。

表 2. 8月末～9月の取り組みの活動概要

8月30日(火)午前中に美瑛町入り　午後　オリエンテーション
8月31日(水)午前 美瑛中での学級に入っての取り組み　給食　午後 座学・講話（美瑛町の教育）放課後、美瑛町学校の文化祭準備のお手伝い
9月1日(木)保幼小中学校連携（美瑛町子育てファイル～すとりーむ～より）を知る一日
9月2日(金)体験学習：農業・福祉連携事業への参加、星の観察（星のソムリエからの講義と星の観察）
9月3日(土)午前 小学生対象の土曜学習　昼食・午後体験学習（美瑛の町をめぐり、美瑛の魅力を知る）
9月4日(日)美瑛町の町を知る取り組み藍染め体験これまでの取り組み成果発表
9月5日(月)午前　美馬牛中での体験　給食　午後　帰京

本取り組みを通して、学生たちは、最終日前日の成果報告会で図2のような成果を発表しました。今回の取り組みで学生が学んだことは、図2のスライドに示したことです。



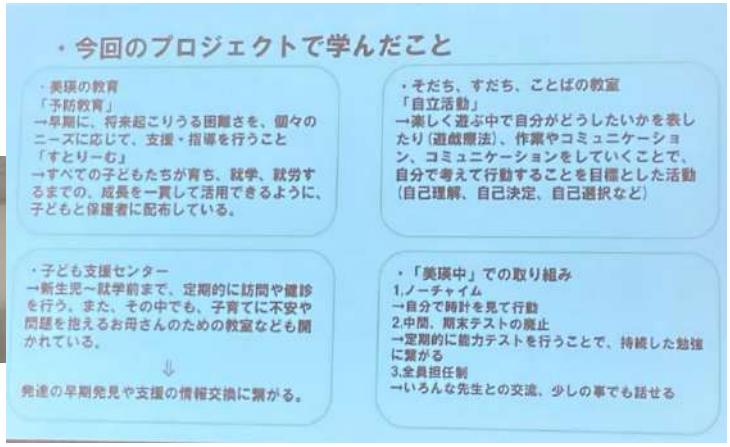


図 2　成果発表の様子と成果スライド

この取り組みの何よりの成果は、美瑛町教育員会の方々や、今回学生が訪問した美瑛町内の中学校の校長先生をはじめ、多くの先生方が学生の取り組みに教育的な価値を見いだしてくれたことです。そのおかげで、令和5年度は9月と2月に8日間の6人の学生を受け入れた取り組みを、美瑛町教育員会が企画し、話を進めてくれていることです。

2　本事業の発展として

今回の取り組みが、新たな事業を生み出しています。その一つが、図 3 の本学学園祭での美瑛町出展と、その中での本学と美瑛町のつながりを説明したコーナーを設けたことです。その中で、本事業の夏季休業中の美瑛町での取り組みに参加した学生が、自らの学びで得たことを、来場者に説明しました。また、2023 年 3 月に行われたさくらフェスティバルにも美瑛町が出店しました。その際にも、本事業に参加した学生がお手伝いをしてくれました。



図 3　学園祭にて美瑛の教育を語る学生

さらに、先述しましたような、次年度の計画が進んでいます。令和 5 年度の学生の美瑛町内の公立学校への受け入れだけでなく、美瑛町の子どもたちが、東京を訪問し、東京の子どもたちとともに、北の丸公園や東御苑での自然観察、東京史跡めぐりを行うことを予定しています。

以上の取り組みの中で、美瑛町との関係が深まるだけでなく、学生の地方創生の意識や少人数体制の中での徹底した個別支援の教育の在り方への意識が高まってきています。最後に、美瑛町の取り組みにかかわった令和 4 年度の卒業生が美瑛町内の公立小学校教員に赴任いたしましたことを付記いたします。

プロジェクト構成員：児童学科：樺山敏郎、厚東芳樹、蛇岩沙紀